

が琴をやっているということだが、琴を教えることになっているのか。

区回答

男子の柔道は指導要領の中で決まっており、柔道ないし剣道のどちらかを行うということになっており、用具の都合上、柔道を行う学校が多い。女子はその代わりにダンスがある。琴に関しては、男女を問わず和楽器を何か一つ行うことになっており、比較的琴を選ぶ生徒が多い。また、双方ともに選択科目となると別であり、選択科目では音楽を選ぶのは女子が多いのが現状である。柔道については、体育の教員は講道館などの機関の講習を受け、黒帯の認定はなされている。

- ・ 体育の先生は基本的なことはわかっているとは思いますが、柔道等は怪我もあるので指導力に不安があるのではないかと。そういったことに地域の人や有段者などを活用したら良い。また、それ以外にも、部活の指導者などにも地域の力を活用すべきである。
- ・ 地域の教育の一つとして、社会性やしつけを身につけさせるために、クラブ活動などのスポーツの教育があると思う。また、下校時の子どもたちを見守っていてくれる人たちを見る。その姿は良いと思うが、その中で交通ルール等のマナーをしっかりと教えていければ良い。
- ・ 昔は中学生がタバコを吸っている等の問題行動があった場合、怖いおじさんが一喝したと思うが、今は、声をかけると怖いから声をかけられない。その連鎖で地域の教育力が失われていっているのではないかと。子どもの問題行動に対して大人が叱った場合に、周囲の大人が叱った人にそっぽを向くのではなく、集団でサポートするような社会にしていく必要がある。
- ・ 挨拶に関しては学校がどう教えているかわからないが、大人に挨拶をされてしまうと子どもの側が引いてしまうという。
- ・ 区内の戸建の多い地域に住んでいるが、自分の周りには子どもがおらず、高齢の方も多いため、子どもは忙しいし、近所の人に会うということがあまりない。そのような地域とマンションが多い地域では、町会などの活動も温度差があり、それぞれに応じた対策が必要ではないかと。
- ・ スポーツなら経験のある方が教えないといけないと思う。区内にたくさんスポーツ関係の団体があるので、そういったところの経験のある方に指導お願いしてはどうか。
- ・ 子どもの問題以前に大人が問題だと思う。自分はマンションに住んでいるが、隣近所の付き合いはない方だが、そのままでは、地域社会への関心がなくなっていくと思う。それが過ぎると、自分中心で閉じこもりがちな生活になってしまう。そのようなことが多いのではないかと。
- ・ 教育基本法で公共の精神が挙げられているが、現状では、ルール(規範)を守るという点で、大人が子どもに対する悪い鏡になっているところがある。「地域の教育力」という以前に日常生活の中に色々な問題点があり、それが教育に結びつくということを考えて、対策をたてる必要がある。
- ・ 教育の問題は経済との関連性がある。日本がバブルを経験したせいで、苦労して額に汗を流すという感覚を失ったのではないかと。シンガポールのように、きちんとしたある種強権ともいえるようなルールも論点として挙げるべきではないかと。
- ・ 地域の教育力の向上ということに関して、開かれた地域、地域のサポートが大事であって、

教育を実際に行うのは学校だと思う。しかし、自分も大学で教えているが、現場に立ってみて、学生のあまりの学力の乏しさに愕然とする。それもバブルを経験した悪弊ではないかと思う。教育委員会の行っていることを拝見すると、いろいろ対策をとられているようだが、大学で何をやってきたのだろうかと思う。あくまで主観だが、かつての10分間テストや百問書取りなどがなくなったときに今日の崩壊が始まったのではないかと思う。

- ・ 都の教育長も、子どもたちの生活習慣をしっかりとさせるために、親の教育に関して非常に悩んでいるということを知っており、親の問題がクローズアップされているのがわかる。
- ・ 地域でも子どもの見回り活動などへの参加などから見られるように意識の二極化がある。

ステップ3 「地域の教育力の向上策」について考えよう！（対応策について）

- ・ 学童帰りに、子どもを自転車に乗せたまま帰るのはいかがなものか。歩くことができるはずであるのだからしっかり歩かせるべき。
- ・ 大人が襟を正して背中を見せるのが基本だと思う。しかしその認識を持たせるところが難しい。
- ・ 大人が、子どもたちにこうなって欲しいというような高い意識を持っていないといけない。例えば、成人式で、大声で騒ぐのがいなかったからよかった、といった程度にしておくのはどうかと思う。
- ・ 大学等で部活のコーチを行っていたこともあったが、少しお金も頂いたこともあったが、それで生活をしていけるとはならない。仕事を持って働いている人に部活の指導を、というのは、個人の生活もあるので、いくらお金が出るといっても難しい所がある。仕事を引退された方は、理論は教えられても、体を使い実践を行うのには難しい所もある。
- ・ 他の区では、先生の脇について授業のサポートをする人がいるという。来年そういった方がつくというが、もう少し予算を出して最大限のサポートをしてもらいたい。一方お金の問題抜きで協力してくれる人もいると思うので、そういった方たちとの協力も得ながら、子どもたちの授業のサポートして欲しい。
- ・ 学校の部活動などのコーチに対する謝礼等は、区の予算だけではなく、受益者負担はできないのか。
- ・ 大人が、無灯火で子どもを送り迎えをするというのはどうかと思う。
- ・ 先日家庭教育通信を拝見したが、そのような立派な資料を一般区民にも大いにPRして、区民に何が問題になっているのかの情報発信を、まずは教育委員会から徹底するべき。そして、それに対する共通認識を持てれば、具体的な対応策を考えることに繋がるのではないか。
- ・ 放置自転車がいたちごっこになっているので何らかの抜本的な対策を行うべき。
- ・ 地域の連帯性を高めなければいけない。少年サッカー大会や野球大会を見物に行くこともあるが、親は応援しているが、それ以外の一般区民はほとんど来ない。そのようなことを積極的に情報を公開して、地域の連帯に繋げていけば良いのではないか。
- ・ なぜ国で決めた祭日や国民の休日に国旗を掲げないのか。掲げることでその休日の歴史、伝統の認識に繋がるのではないか。
- ・ 各学校で「学校だより」や「ほけんだより」を毎月出しているが、荒川区の町会組織は徹底しているので、そのような配布物を町会にも配布し、今学校がこういったことを行なっ

ている、学校では保健教育としてこういったことに注意しているというメッセージを、町会などを通して示すべきではないか。そうすれば学校に親近感が湧くといったことに繋がるのではないか。

- ・ 地域の教育力の向上とは「地域の教育力を支援する力の向上」だと思う。
- ・ 今日来る際に区民パトロールの車を見てほっとした。夜間交番などが無人化される中で、都では 3000 人警官を増やすそうだが、なんらかの形でそのようなことを続けて欲しいと思う。
- ・ 日本の社会そのもの、特に行政サイドがノーと言いきいようになっているのではないか。
- ・ 大人に対しても筋の通った話をすれば人間はわかってくれるはずである。
- ・ どの国でも、良い教育にはお金がかかるということであり、可能な限り教育にお金をかけるべき。
- ・ 挨拶に関して、交通安全委員として町会長と一緒に立つ機会が多いが、町会長は通る人全員に「おはようございます」と声かけをしている。最初は皆困惑しているが、しばらく行い続けることで、今度は向こうから挨拶をされるようになってきた。挨拶の場合は粘り強くやり続けるのが重要ではないか。

ステップ 4 今日の議論を確認しよう

コーディネーターより本日の意見のまとめがなされた。

ステップ 5 第 6 回分科会の進め方について考えよう

提言報告会が 3 月 21 日（祝）に行われる予定で、提言のまとめを次回に行う。

教育委員会から、学校教育ビジョン（案）の紹介とパブリックコメントの意見収集のお知らせがなされた。

以上